

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	漫画の擬音語・擬態語：日本語と英語
Author(s)	ステファニー ブルームフィールド,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1997 : 107 - 115
Issue Date	1998-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039549
Right	
Relation	



漫画の擬音語・擬態語

日本語と英語

ステファニー・ブルームフィールド

はじめに:

英語は擬音語・擬態語を使っているが、頻度が日本語と比べると、日本語の方がよく使われている。擬音語・擬態語の数も多いし、使用頻度も高い。日本人の子供たちは、小さい時にこの単語に接触し、すぐ自分で使い始める。それで、普通の日本人は擬音語・擬態語をよく使う。特に、日本語の漫画の中には擬音語・擬態語の単語が多く使われている。その部分は漫画だけに使われるものも多く、辞書には、全部は載っていない。他の出版物と比べたら、漫画ほど擬音語・擬態語が使われるものはない。もちろん、日本の漫画の種類は本当に多い。どこへ行っても漫画が売られている。男性、女性、子供の漫画もある。人気がある漫画は映画になる。漫画の世界は広い。それで、日本語の擬音語・擬態語を勉強するには、漫画の世界の中で勉強するのが良いだろう。

この研究をするために、日本の漫画の「What's Michael?」(小林まこと著)と「サザエさん」(長谷川町子著)を使って、日本の擬音語・擬態語を英語の訳と比べた。「What's Michael?」には、猫のマイケルの生活とマイケルの飼い主の生活が述べられている。猫の物語だから、擬音語・擬態語が多いのである。著者は、こういった擬音語・擬態語を使って、読者に猫の気持ちを伝えている。一方、「サザエさん」は普通の日本人の生活についての漫画である。多分、「What's Michael?」も「サザエさん」も多くの日本人に知られている。

擬音語・擬態語: 擬音語は簡単に言うと、人間と動物の声と運動の音をまねる言葉である。例えば、「クックッ」という笑い、犬の鳴き声の「ワンワン」などは擬音語という言葉である。擬態語は音を言い表さなくて、生物、無生物の状態と様子を表現する。「すらすら」と言う単語は、音を表現しなくて、動作や物事が滞りなく運ぶのを表現している言葉である。

1. 集め方:

最初に、「What's Michael?」に出てくる日本語の擬音語・擬態語とそれに相当する英語を集めた。後で、「日英擬音・擬態語活用辞典」と「小学館プログレッシブ和英中辞典」で単語の意味を調べて、それぞれの語を擬音語か擬態語に分類し表1に示した。日本語の擬音語に出てくる子音類(表2)と母音類(表3)の音素表を作った。例えば、語「か」は表の中で /k/ と /a/ の位置にそれぞれその出現回数を記入した。擬態語も同様にした。基本的には、1モーラと2モーラのグループに分け、同音反復の語別のグループも入れた。更に、

(2)

グループの中で音の種類により細分化した(表4)。英語の場合は、日本語と同じように、擬音語・擬態語のグループに語を分けた。その後、英語の単語の語頭の文字により分類した(表5)。そして、子音連結については言葉の語頭(表6)と末尾(表7)の音のグループにも分けた。例えば、「sproing」という言葉は、「sp」のグループと「ng」のグループにした。英語には、モーラがないから、音節により分類したが、日本語の場合はモーラにより分類した(表8)。

2. 分析

表1から「What's Michael?」と「サザエさん」には擬音語の方が、擬態語より多いことが分かる。日本語でも、英語でも多い。日本語の数と英語の数は違う。そして、時々日本語の語に対する英語の語がなかった。

表2から擬音語の子音の/g/、/b/が特に多いことが分かる。一番頻繁な子音は/g/であったが、/b/も多かった。/j/、/t/、/ts/、/h/、/n/はあまり使用されていなかった。/y/と/r/はまったく使用されていなかった。擬態語の場合は、擬音語のように、/g/が一番多かったが、/p/と/s/も頻繁であった。/sh/、/j/、/d/、/n/、/h/、/y/、/z/の頻度は少なかった。そして、/t/、/ts/、/m/、/r/、/w/は使用されていなかった。

表3から擬音語・擬態語の母音は/a/、/i/、/u/の頻度が高いことが分かる。/e/というのは、母音はあまり使用されていなかった。擬音語には、/a/が一番多くて、/u/は二番目に多かった。擬態語の場合は、/u/と/o/(9回ずつ)が一番、/a/は二番目に多かった。

表4から擬音語の2モーラのグループは使用頻度が高く、1モーラのグループの頻度も高いことが分かる。擬態語については、1モーラのグループが一番高い。しかし、全体に2モーラのグループが一番多くて、1モーラのグループは二番目、反復は三番目多かった。語の末尾の語を見たら、1モーラと2モーラのグループには、「ッ」の音が特に多い。しかし、反復のグループには、「ッ」の語がなかった。その上に、「ン」の頻度は一番多いと言えないが、よく使われていることである。

表5から英語の語頭の文字には、[i]、[l]、「q」、「u」、「x」、「y」の擬音語・擬態語はないことが分かる。擬音語の場合は、「s」がはるかに多かった。それから、「b」、「c」、「p」、「t」は、だいたい同じ頻度で、二番目に多かった。擬態語は少し違った。「s」と「w」は、3回で、一番多かった。

表1:擬音語・擬態語の頻度

	[What's Michael]		「サザエさん」	
	日本語	英語	日本語	英語
擬音語の頻度	55	72	28	32
擬態語の頻度	26	11	3	2

表2:擬音語・擬態語の子音

	k	g	s	sh	j	z	t	ch	d	ts	n	h	b	p	m	y	r	w
WM 音	3	12	3	2		2	1	4	4	1	1	1	14	4	2			1
サ音	4	7	1	1	1			4	1			1	1	3				1
合計	7	19	4	3	1	2	1	8	5	1	1	2	15	7	2			2
WM 態	2	5	4	1	1	1		2	1		1	1	2	4		1		
サ態		1												1				
合計	2	6	4	1	1	1		2	1		1	1	2	5		1		

WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

表3:擬音語・擬態語の母音

	a	i	u	e	o
WM擬音語	25	7	11	2	10
サ擬音語	11	5	5	2	3
合計	36	12	16	4	13
WM擬態語	7	2	6	2	9
サ擬態語			3		
合計	7	2	9	2	9

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

(4)

表4:末尾拍「ツ」, [ン]の頻度

	語の末尾	「WM」	「サ」	合計	「WM」	「サ」	合計	音と態の合計
		擬音語	擬音語		擬態語	擬態語		
1モーラ	+ / ツ /	8	1	9	6	1	7	16
	+ / ン /	4	1	5	1	1	2	7
合計				14			9	23
2モーラ	+ / ツ /	10	3	13	4		4	17
	+ / ン /	6	5	11			1	12
合計				24			5	29
反復	+ / ン /	3	5	8	3	1	4	11

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」

表5:語頭の文字(英語)

	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	m	n	o	p	r	s	t	v	w	z	
WM音	4	9	7	1		5	2	3		1	1	1		7	5	14	6	1	2		
サ音	1	2	4		1		1							1	3	2	5	5		2	2
合計	5	11	11	1	1	5	3	3		1	1	1	1	10	7	19	11	1	4	2	
WM態				1					1						1	3	1		3		
サ態	1																				
合計	1			1					1						1	3	1		3		
音と態の合計	6	11	11	2	1	5	3	3	1	1	1	1	1	10	8	22	12	1	7	2	

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

表6: 語頭の連結子音(英語)

	bl	cl	cr	fl	gr	pl	sk (sc)	sw	sl	sp	sm	sn	st	tw	vr
WM音	2	2	3	4	1	2	6	2	1	1	1	1		1	1
サ音		2			1		1						1		
合計	2	4	3	4	2	2	7	2	1	1	1	1	1	1	1
WM態								2							
サ態							1								
合計							1	2							

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

表7: 末尾の連結子音(英語)

	ft	lp	mf	mp	ng	nk	nt	rf	rg	rp	rt	st	zt
W M 音	1			6	3	1	1	1	1	1	1	1	1
サ音		1		2	5								
合計	1	1		8	8	1	1	1	1	1	1	1	1
W M 態													
サ態			1										
合計			1										

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

表8: 語の音節(英語)

	1音節	2音節	3音節
WM擬音語	67	6	
サ擬音語	20	11	2
合計	87	17	2
WM擬態語	6	2	
サ擬態語	5		
合計	11	2	

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

(6)

表6から英語の擬音語の場合、語頭の連結子音は /sk/ (/sc/) が一般的であることが分かる。 /fl/、 /cl/、 (4回ずつ) も /cr/ (3回) も多かった。 擬態語の場合は、資料があまりなかったが、擬音語のように、 /sk/ (sc) の連結子音が一番多かった。

表7から英語の擬音語では、 /ng/ と /mp/ (8回ずつ) で終わる音の使用頻度が一番高いことが分かる。 擬態語では、 /mf/ を除いて、末尾の連結子音の資料はあまりなかった。

表8から英語では、1音節が一般的であることが分かる。 2音節も多いが、1音節ほど多くない。

3. 日本語の特徴

集めた資料から、日本語の擬音語・擬態語の特徴が見られる。 漫画だけ勉強しても、この資料は漫画だけの擬音語・擬態語ではなく、擬音語・擬態語の特徴を示すかも知れない。

表2を見てみると、前にも述べたように、擬音語には、 /g/ の頻度は高かった。 擬態語にも、 /g/ の頻度は一番高かった。 これは一つの日本語の特徴である。 Hamano (1986) によると、語頭子音の /g/ は突然の動きを表す。 面白いのは、 /g/ という音声は有声子音である。 普通は、日本語で有声子音というのは、重く、大きく、汚い状態や様子を表し、不定的な含みを表す。 無声子音の /k/、 /s/、 /t/、 /p/ は、反対の事を表し、軽く、小さく、美しい状態や様子を表す (日英擬音・擬態語活用辞典)。 擬音語で二番目に多かった子音 /b/ も有声子音であったが擬態語には、二番と三番目が /p/、 /s/ と無声子音であった。 擬音語にも擬態語にも、 /r/ は使用されていなかった。 それで、 /r/ を使用していないのは一つの日本語の特徴と言える。

表3を母音に着目して見てみよう。 一つの特徴は、 /e/ という母音はあまり使用されていなかったということである。 理由は「母音eを含むものの多くは品のよくない音、状態、行為の描写に使われる。」 (日英擬音・擬態語活用辞典) ためかも知れない。 もう一つの特徴は、擬音語には、 /a/ の母音がよく使用されていることである。 擬態語で /u/ と /o/ の頻度が高かった。

表4を見てみると、擬音語・擬態語の成立の特徴がすぐ分かるだろう。 一つの特徴は2モーラの語がよく使用されていることである。 語の末尾音の欄を見てみると、「ッ」は、よく使用されている。「ッ」という語は、急に起こったり、断固した事を表したりしている (*The Languages of Japan*, 1990)。 特に、漫画には、物語が面白くなるために、驚き

事は必要であるので、「ッ」はよく使用されているかも知れない。

語の末尾音の「ン」もよく付いていた。一般的に、「ン」という語は、引き延ばした音やリズムカルな音を表すということである。(The Languages of Japan 1990)。

4. 英語の特徴

表5を見てみると、前にも述べたように、「s」、「b」、「c」、「p」、「t」は多かった。「b」を除いて、これらの子音の全部は無声子音である。これは、一つの資料の特徴である。もう一つの特徴は、語頭の文字として、「a」を除くと、母音がめったに使用されていなかったことである。「l」、「q」、「x」と「y」もあまり使用されていなかった。英語では「q」と「x」は特別な音である。辞典で調べると、あまり入っていないことが見つけられるだろう。「l」、「y」については、あまり使用されていないのは言いにくいからかも知れない。

表6に着目して見てみよう。一番目立つ事は /sk/ (sc) の連結子音である。他の連結子音を比べて、/sk/ の子音は本当に多い。/cl/ と /fl/ もよく使用されている。連結の第二文字目は、よく /l/ であった。例えば、/bl/、/cl/、/fl/、/sl/、/pl/ であった。面白いのは、連結子音のうち約2分の1が第2文字が /s/ で始まっていた。第一文字目の /s/ で始まる連結子音を除くと、他の連結子音の第二文字目はだいたい /l/ か /r/ であった。

表7は末尾の連結子音であった。擬音語には、末尾音の /mp/、/ng/ が多かった。/mp/ は、英語では何か物が落ちた時に、/ng/ は、二つの物がぶつかる時の表現に使われる音である。擬態語の場合は、末尾の連結子音はあまりなかった。これは一つの英語の特徴と言える。

もう一つの特徴は表8で見つけることができる。英語は、普通、1音節の語を多く使っている。理由は、効果を表すために、短い語の方がいいからだろう。

5. おわりに

資料から日本語と英語のいろいろな特徴が見られた。日本語と英語は異なった言語だから、比較が難しい。しかし、似ているところがある。例えば、日本語にも、英語にも、擬音語は擬態語より多く使用されていた。更に、末尾音には、日本語の場合は、/ン/ がよく使用されていて、英語は、似ている /ng/ がよく使用されていた。

一方、違うところもあった。多くの日本語の単語は有声子音の /g/ の音で始まったが、英語の多くは、無声子音の /sk/ (sc) の音で始まったことである。もう一つの特徴は、日本

(8)

語に比べて、英語は連結子音、例えば /sk/ などがよく使用されている。

英語に、非常に目立った事は、1音節の使用頻度であった。日本語には、2モーラのグループが一番多かったが英語の頻度ほど、目立った事ではなかった。

表9: 日本語と英語の特徴

日本語			英語		
種類	多い	少ない	種類	多い	少ない
音・態	擬音語	擬態語	音・態	擬音語	擬態語
子音	/g/	/r/	語頭の連結子音	/sk/, /cl/, /fl/	
母音	/a/, /u/, /o/	/e/	語頭の文字	音「b」「c」「p」「t」 態「s」「w」	
末尾音	/ʃ/, /ん/		末尾音	/mp/, /ng/	
モーラ	2	3,4	音節	1	3

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

日本の漫画は多くの日本人に読まれているので、日本人の生活に影響を与えている。それに、漫画の「言語」も日本人に影響を与えている。他の国と比べたら、日本の漫画事業が一番広いから、漫画の大切さを忘れてはいけない。それで、資料に出てきた特徴は日常会話にも出てくるだろう。

英語では、通常擬音語・擬態語があまり使われていないが、日常、日本語ではよく使われている。それで、擬音語・擬態語は日本語に特に大切である。

英語を学ぶ人にとっては、擬音語・擬態語をあまり勉強しなくても、英語が分かるだろう。しかし、私は、日本語を習っているので、擬音語と擬態語も習わなければならない。というのは、テレビの広告、本、日常会話によく出てくるからである。擬音語と擬態語の勉強から、特に日本語には、言語のいろいろな事がわかる。

参考文献

HAMANO, SHOKO SAITO (1986), *The Sound-Symbolic System of Japanese*, University Microfilms International.

長谷川町子 (1997)『サザエさん』講談社インターナショナル株式会社

HILL, ARCHIBALD. A (1958) *Introduction to Linguistic Structures*, Harcourt, Brace and Company, Inc.

JORDEN, ELEANOR. H (1982)、「擬声語・擬態語と英語」『日英語比較講座』大修館書店。

小林まこと (1994)『*What's Michael?*』株式会社講談社

近藤いねこ他 (1993)『小学館プログレッシブ和英中辞典』、小学館。

尾野秀編 (1984)『日英擬音・擬態語活用辞典』北星堂書店

SCHODT, FREDERIK. L (1983) *The World of Japanese Comics*, Kodansha International Ltd.

SHIBATANI, MASAYOSHI (1990), *The Languages of Japan*, Cambridge University Press.